

神奈川の知的資源

神奈川県内には、大学をはじめ、国や民間の研究所などが多く立地しており、その豊かな人材により、まさに神奈川は知的資源の宝庫となっています。当センターにおいても、県内の大学・研究所等の方々とは、引き続き協力・連携関係を深めていきたいと思っています。

当ジャーナルでは、毎号、県内の大学で活躍されている研究者数名並びに、大学が所有する施設を紹介しています。今号は、次の大学からの研究者及び美術館を紹介致します。

[研究者紹介]

放送大学 福富 洋志氏

明治学院大学 頼 俊輔氏、長谷部 美佳氏

八洲学園大学 竹田 葉留美氏、野口 久美子氏

横浜商科大学 竹田 育広氏、中村 純子氏

[博物館・美術館等紹介]

女子美術大学美術館（女子美アートミュージアム）



【横浜みなとみらい21地区の風景】

寄稿いただいた大学の方々に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

神奈川の研究者紹介

氏名	福富 洋志 (ふくとみ ひろし)	
現職	放送大学特任教授、神奈川学習センター所長、工学博士	
主な経歴	1980年3月東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、横浜国立大学工学研究院教授、工学研究院長、理工学部長、東北大学多元物質科学研究所客員教授を歴任。横浜国立大学名誉教授	
専攻分野・研究テーマ	材料工学：合金元素を低減した高性能材料の開発、軽量耐熱材料の開発、材料性能の高度化技術の探求	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】岩波講座現代工学の基礎「金属材料」(2001年、共著)、見方・考え方合金状態図、オーム社(2003年、共著)、自動車材料の最前線、CMC出版(2006年、監修)、等</p> <p>【論文】「優先動的結晶粒成長機構によるFe-Mn-Si-Cr合金の集合組織制御と形状記憶特性の向上」(共著), 鉄と鋼, 107(2021), 第4号, 312-320.</p> <p>「アルミニウム線材の繰返し曲げ変形における結晶格子回転と疲労亀裂形成」(共著), 軽金属, 69(2019), 302-308. 和文、欧文論文多数。</p> <p>【学会活動】日本金属学会会長、日本鉄鋼協会理事、自動車技術会材料部門委員長</p> <p>【社会活動】文部科学省大学設置・学校法人審議会工学専門委員会委員、大学改革支援・学位授与機構 学位審査会<材料工学>委員、高等専門学校機関別認証評価委員会委員、横浜ティーエルオー株式会社取締役、(公財)総合安全工学研究所常務理事等。</p>	
神奈川県との関わり	神奈川県立産業技術総合研究所が実施する高度技術活用研修の講師、神奈川工業技術開発大賞選考委員、神奈川県科学技術会議研究推進委員会委員等の他、神奈川県内企業の材料技術相談・技術指導、等	
メッセージ	<p>「鉄は熱いうちに打て」は若いうちに鍛錬することの大切さを述べたたとえですが、実は、強さをはじめ、材料の様々な特性は材料工学に基づいた技術で鍛えられ、高度化されています。合金の性能は、元素の種類や割合だけでは決まりません。ですから、材料を適切に使用するためにはその材料の特性や機能がどのような手法で生み出されたのかについての理解が大切です。</p> <p>着眼した材料が利用できるのか/できないのか、積極的に使うべきか/控えるべきか、注意すべき点は何か、などについて判断ができる知識を持つことが望まれます。そのため、具体的な材料課題が発生した企業や新材料を検討している企業の技術相談だけでなく、様々な講習会や公開の講演会で材料技術とその原理を紹介しています。材料の性能を100%活用するための力になればと思います。</p>	
連絡先	放送大学神奈川学習センター 〒232-8510 神奈川県横浜市南区大岡 2-31-1 電話：045-710-1910 E-mail: h.fukutomi@ouj.ac.jp	

神奈川の研究者紹介

氏名	頼 俊輔（らい しゅんすけ）	
現職	明治学院大学 国際学部国際学科 准教授	
主な経歴	横浜国立大学国際社会科学部 博士 在インドネシア日本大使館専門調査員、日本学術振興会特別研究員、国際協力機構（JICA）審査部専門嘱託を経て現職。	
専攻分野・研究テーマ	グローバリゼーションの政治経済学：インドネシアのパーム油開発、開発途上国の税制改革、水道民営化など	
主要業績 （これまで発表 した著書、論文、 行政委員の 経験等）	<p>【著書・論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「途上国の開発戦略と開発の歪み」『地球経済入門』（法律文化社、2021年） ・「日本の海外水道事業への関わり方の検討：世界の「再公営化」およびカンボジア・プノンペン水道改革の事例から」『公営企業』（2017年） ・『インドネシアのアグリビジネス改革』（日本経済評論社、2012年） ・「途上国の水道事業民営化」『水と森の財政学』（日本経済評論社、2012年） <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度外務省 ODA 評価インドネシア国別評価（第三者評価）アドバイザー 	
神奈川県との 関わり	かつて、本郷台のあーすプラザにあった神奈川県自治総合研究所でインターンをしていました。現在は、キャンパスのある戸塚で、大学と地域をつなげる取り組みを進めています。	
メッセージ	<p>【関心を持っている領域】</p> <p>学内で、学生・教員・職員を交えた哲学対話を実践しています。「なぜ働かなくてはいけないの？」「自分らしさとは何か？」など、当然すぎて考えていないテーマで対話をしています。哲学対話の意義は、常識を疑ってみること、物事の本質を考えること、人の話をじっくり聞くこと、にあります。今後は、対話の場を広げ、地域のみなさんも参加できるようにしたいと思います。</p> <p>ゼミでは、毎年、10日間ほどの校外実習を行っています。現在、計画しているのは、岐阜・郡上市の地域再生の実習で、事前に、郡上市の人口動態、産業構造、観光促進の取り組みなどについて、データを用いて下調べをし、問いを立てておき、その問いをもとに現地で調査を行います。卒業生のなかには、地域で働く生き方を選ぶ人が増えてきましたが、こうした動きを支えるには、地域経済の循環をどう作るかが課題だと考えています。</p>	
連絡先	<p>明治学院大学 国際学部</p> <p>045-863-2200（代表）</p> <p>https://fis.meijigakuin.ac.jp/ E-mail: rai[@]k.meijigakuin.ac.jp</p>	

神奈川の研究者紹介

氏名	長谷部 美佳 (はせべ みか)	
現職	明治学院大学教養教育センター准教授	
主な経歴	英国イースト・アングリア大学大学院 開発学 修士 東京都立大学大学院社会科学部研究科社会学専攻 社会学博士 東京外国語大学世界言語社会教育センター 特任講師	
専攻分野・研究テーマ	移民、難民とジェンダー 結婚による国際移動とジェンダー	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】『結婚移民の語りを聞く：インドシナ難民家族の国際移動とは』（ハーベスト社、2021年）</p> <p>【論文、論説】</p> <p>「カンボジア難民の語る「エスニック・コミュニティ」と「日本社会」とのつながり」『語りの地平』第6号, pp. 145-156, 2021</p> <p>「恒久的な難民対策につながらなかったインドシナ難民対策：ポート・ピープルへの対応を中心に」『PRIME』45号, 2022（刊行予定）</p> <p>「多文化共生の源流としてのインドシナ難民支援」『カルチュラル』第16巻、第1号, 2022（刊行予定）</p> <p>【委員等】</p> <p>東京都多文化共生推進委員会委員 新宿区多文化共生まちづくり懇談会委員 総務省多文化共生の推進に関する研究会メンバー（2020年8月まで）</p>	
神奈川県との関わり	2000年に神奈川県外国人県民調査に関わらせていただいたのをきっかけに、約20年間、神奈川県最大の県営住宅、いちょう団地にて外国籍住民に関するフィールド調査を続けております。直近では、元難民の方の聞き取り調査をすべく、県央地区にも足を運んでいます。	
メッセージ	神奈川が全国に誇るべきなのは、全国に先駆けて「国際化」／「民際外交」を進めてきたことでしょう。神奈川に暮らす外国籍住民は、東京と比べると多くはありませんが（全国で4位）、多文化共生の分野では、先進地域です。医療通訳の派遣制度や、高校受験のための在県特別枠、外国籍県民会議など、今では他県でも実施しているものでも、20年以上前から実施している県は少ないはずで、外国籍の住民が増加する中で、県民一人一人がどのように「共生社会」を築いていけるのか、一緒に考えられる機会があれば嬉しいです。	
連絡先	明治学院大学教養教育センター 〒244-8539 神奈川県横浜市戸塚区上倉田町 1519 電話：045-863-2067（共同研究室） E-mail: mikahase@gen.meijigakuin.ac.jp	

神奈川の研究者紹介

氏名	竹田 葉留美 (たけだ はるみ)	
現職	八洲学園大学生涯学習学部生涯学習学科 准教授 公認心理師/臨床心理士 キャリアコンサルタント	
主な経歴	昭和女子大学大学院生活機構研究科 (修士課程) 修了、千葉大学大学院融合科学研究科 (博士課程) 単位取得満期退学後、2019年より現職。並行して公認心理師・臨床心理士として企業やクリニックなどでカウンセリングや研修等を行っている。	
専攻分野・研究テーマ	臨床心理学、社会心理学、観光心理学を基盤に、ストレス、コミュニケーション、旅行・観光、地域活性化が研究テーマ	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】『自ら挑戦する社会心理学』(共著) 教育情報出版 (2014) 『習慣を変えれば人生は変えられる』(編集協力) 教育評論社 (2009)</p> <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“過去の出来事の想起が抑うつ状態に及ぼす影響” (単著 2010) ・“Investigation of the Effectiveness of Mental Health Tourism” (共著 2008) ・“Effects of an excursion on mental health” (共著 2011) ・“出来事の視点を変えてポジティブに考える～リフレーミングを活用したストレスマネジメント～” (単著 2017) 情報の科学と技術 67巻3号 (コラム) 	
神奈川県との関わり	第4回にしくらぶ「新しい自分発見! 記憶とメンタルヘルス」(コロナにまけるな! 西区元気プロジェクト2020) 講演。一般社団法人横浜みなとみらい21「みなとみらいかもめ SCHOOL」においてメンタルヘルスをテーマに講座を担当。また茅ヶ崎市の浜降祭を中心に「祭」の心理的・教育的影響やマイクロツーリズムによる地域活性化について研究を行っている。	
メッセージ	現在の日本は元気がないといわれています。日本の停滞を招いているもののひとつには人びとの疲労の蓄積があると考えられます。今の日本人は働くばかりで、あまりリフレッシュできていないように見受けられます。こうしたOFFのなさが今の日本の閉塞感と低成長、さらには心の問題につながっているように思えるのです。このOFFというものを考えるときに「旅行・観光」というコンセプトがあります。旅行・観光は人と人との交流の場であり、刺激を受けて新たな気づきを得たり、リフレッシュしたりするといわれています。予防的なストレスマネジメントを考える上で、マイクロツーリズムやコンテンツツーリズムをベースに、神奈川県内の様々な観光資源を活用し、連携・協働しながら地域活性化を図ると同時に、メンタルヘルスの向上を目指す取り組みを考えていきたいと思えます。	
連絡先	八洲学園大学 生涯学習学部 〒220-0021 神奈川県横浜市西区桜木町7丁目42番地 電話: 045-410-0515 (代表) E-mail: u-info@yashima.ac.jp (代表)	

神奈川の研究者紹介

氏名	野口 久美子 (のぐち くみこ)	
現職	八洲学園大学生涯学習学部 教授	
主な経歴	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士前期課程修了後、法政大学、日本女子大学等で非常勤講師として勤務。2016年八洲学園大学専任講師。2018年より現職。	
専攻分野・研究テーマ	図書館情報学、教育学。学校図書館の運営、学校図書館専門職、子どもの読書、学校における読書教育など。	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『学校図書館メディアの構成』全国学校図書館協議会, 2020 (共著) <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「高等学校教員の読書指導に影響を与える要因 : 教員の個人的な経験と読書指導をとりまく環境に着目して」『Library and Information Science』no. 74, 2015, p. 1-29. 「教員の読書指導への意識や実態を踏まえた学校図書館の支援のあり方 : 高等学校を対象とした調査をもとに」『日本図書館情報学会誌』vol. 59, no. 2, 2013, p. 61-78. <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調布市立図書館 図書館協議会委員 	
神奈川県との関わり	県内の学校図書館関係者(司書教諭、学校司書など)に対する助言、研修会講師など。	
メッセージ	<p>図書館を活用した授業や読書教育に携わる先生方、学校司書の皆さんがどのような経験を経た上でいかなる指導観のもとに実践に取り組んでいるのか、どのようなことを課題として捉えているのかに着目して研究を行ってきました。新学習指導要領では探究的な学習が重視されており、学校図書館の活用は喫緊の課題です。</p> <p>本学では開学当初から図書館司書の養成に力を入れています。2018年には学校図書館専門職養成プログラムを開設しました。司書教諭や学校司書として働きながら学ぶ学生さんから実務の相談に乗ることもあります。神奈川県内でも学校司書の配置が進んでいます。研修会講師や共同研究などを通じて、学校図書館の充実に貢献していけたらと思っています。</p>	
連絡先	<p>八洲学園大学 生涯学習学部</p> <p>〒220-0021 神奈川県横浜市西区桜木町7丁目42番地</p> <p>電話 : 045-410-0515 (代表) E-mail : u-info@yashima.ac.jp (代表)</p>	

神奈川の研究者紹介

氏名	竹田 育広 (たけだ やすひろ)	
現職	横浜商科大学 商学部 観光マネジメント学科 教授	
主な経歴	明治大学政治経済学部卒業 早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学 2019年4月より現職	
専攻分野・研究テーマ	サービス・マーケティング、観光サービス経営 地方中小都市の屋外遊園地の経営・マーケティング研究	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【最近の著書・論文】</p> <p>『日本社会に生きる中小企業』、第6章 日本の観光経済と地方遊園地の経営、分担執筆、中央経済社 (2018年10月)</p> <p>「中核市にある屋外遊園地の立地パターン —宇都宮市、富山市、豊橋市、前橋市の事例比較—」商大論集第55巻第1号 (2021年10月)</p> <p>【委員歴任・在任】</p> <p>福井県美浜町 (美浜町スマート・コンパクトシティ魅力創造拠点化事業地域づくり拠点化整備基本計画策定委員会委員、地域づくり拠点化整備事業 PFI 事業検討委員会委員)、千葉県茂原市 (「道の駅等都市交流拠点設置」検討委員会委員長)、奈良国道高峰サービスエリア利用計画検討委員会委員ほか。</p>	
神奈川県との関わり	(公財) 横浜観光コンベンションビューロー主催の「横浜 MICE 人材育成講座」キックオフシンポジウムにて、テーマ「MICE マーケットの可能性」の講演を行いました (2021年9月30日実施)。	
メッセージ	<p>2018年頃から遊園地研究に加え、「移動 (ムーブメント/モビリティ)」の研究テーマを開拓しています。昨今のコロナ禍の影響から「移動」に関する意識は国際間でより高まっています。「社会が変われば移動が変わる、移動が変われば社会が変わる」をキャッチフレーズに、移動を分析して新たなビジネスチャンスを見つけたいと考えております。</p> <p>本学の鶴見キャンパスの新3号館 (開学50周年記念館) の屋上・商大テラスからは、お天気の良いときには京浜工業地帯、横浜ベイブリッジ、みなとみらい・山下公園エリアを一望できます。このフィールドで学んだ本学の学生の多くが神奈川県内に本社を置く事業所で働いています。これからも横浜市をはじめ、神奈川県内の各自治体、ならびにさまざまな業種の事業所とともに連携を取りつつ、教育・研究活動に邁進したいと考えております。</p>	
連絡先	横浜商科大学 商学部 観光マネジメント学科 〒230-8577 神奈川県横浜市鶴見区東寺尾 4-11-1 E-mail: y.takeda@shodai.ac.jp	

神奈川の研究者紹介

氏名	中村 純子（なかむら じゅんこ）	
現職	横浜商科大学商学部観光マネジメント学科教授	
主な経歴	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻後期博士課程単位取得修了、2001年横浜商科大学専任講師、2004年准教授を経て、2010年より現職	
専攻分野・研究テーマ	観光人類学、オセアニア地域研究 観光文化（観光芸術）研究、コンテンツツーリズム研究、災害と観光研究	
主要業績（これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等）	<p>【著書・論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『オセアニア学』 京都大学学術出版会（共著・2009年） ・「グローバルな土産品と店舗環境にみる〔レプリカの構造〕」『横浜商大論集 第47巻第2号』（単著・2014年） ・『コンテンツツーリズム研究 増補改訂版』 福村出版（共著・2019年） ・「津波モニュメント等に見る伝承と観光利用の状況分析―道南および三陸を中心に―」『横浜商大論集 第53巻第2号』（単著・2020年） <p>【行政・委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀市Sプロジェクト「シンポジウム」企画・パネル司会（2014年）など 	
神奈川県との関わり	神奈川県産業労働局中小企業部商業流通課派遣・湯河原明店街アドバイザー（2016年～）	
メッセージ	<p>【現在関心ある領域】</p> <p>災害と観光に関して、国内の津波常襲地帯の津波碑や儀礼、語り等の伝承と観光文化の関係について注目しています。これまでの南太平洋（ニューカレドニア）の観光文化研究に加えて、日本の「アニメ聖地巡礼」やキャラクターによる地域振興について関心があり、南砺市や湯河原などで活動しています。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>神奈川県各地の歴史文化から生活文化を掘り下げ、また、サブカルチャーを利用することで、内外の人々に親しみやすい観光文化を提示するなど、これまで埋もれていた観光資源を県とともに発掘できればと思います。</p>	
連絡先	横浜商科大学商学部観光マネジメント学科 〒230-8577 神奈川県横浜市鶴見区東寺尾 4-11-1 E-mail : anubette@shodai.ac.jp	

女子美術大学美術館（女子美アートミュージアム）

女子美術大学は「芸術による女性の自立」「女性の社会的地位の向上」「専門の技術家・美術教師の養成」を建学の精神として、1900年の創立以来、今日まで多くのアーティストやデザイナー、教育者を輩出してきました。美術館では「美」「知」「技」の教育研究資源としての芸術品や工芸品、歴史資料など、時代や文化を越えた幅広い分野を対象に収集し公開しています。

1. 美術館の沿革

グローバルな時代を迎えて、今後も女子美術大学が教育・研究の拠点としてその役割を果たせるよう、学術研究を推し進め、社会に貢献する美術館として1994年に博物館相当施設の指定を受け、2001年10月に「創立100周年記念棟」として美術館（女子美アートミュージアム）が開館いたしました。

2. 美術館の特色

女子美術大学の教育理念に則り美術館では、教育・研究活動を行う施設であると同時に博物館法に定める大学付属美術館として、地域社会に対して美術・芸術の普及活動を行うことを趣旨としています。特に、片岡球子や三岸節子など本学出身でゆかりの深い作家の作品を収蔵する美術館コレクションと、2009年に旧カネボウコレクションを所蔵したことにより古代から現代まで12,000点にも及ぶ日本の小袖や世界の染織品を網羅した、国内最大級の女子美染織コレクションを収蔵しています。これらの2つのコレクションを柱とし、企画展を含めた展覧会や学内外の学生の教育成果を発表する展示を年間を通して開催しています。その他、美術資料、工芸品、歴史資料など幅広い調査研究・収集・保存等を特色としています。

3. 地域文化とのかかわり

美術館は神奈川県立相模原公園と市立相模原麻溝公園に隣接し、豊かな自然と美術が融合する恵まれた環境の中にあります。美術館開設時に地元相模原市との文化促進協定の締結で、講演会やギャラリートーク、ワークショップなどの教育普及活動を通して市民との交流を深め、地域社会の人々に親しまれる美術館となっています。美術館の活動方針の一つに「市民との触れ合いを深め、地域との美術振興に貢献する」ことをうたっており、毎年、相模原市教育委員会とタイアップして公立小・中学校の児童・生徒の作品展「さがみ風っ子展」を開催し、多くの方々に鑑賞いただいています。女子美術大学の附置施設として、美術教育・研究の拠点として学術的な研究を通して、美術振興と作家活動の支援に貢献しています。

4. ご利用案内

開館時間 10:00～17:00（入館16:30）
 休館日 日曜日・祝日・展示替期間（ただし展覧会に応じて特別開館あり）
 入館料 展覧会ごとに定めます。
 問合せ先 042-778-6801
 交通アクセス 小田急線相模大野北口3番バス乗り場、JR横浜線古淵駅2番バス乗り場から「女子美術大学」行き神奈川中央交通バス。お車の場合、隣接する市立相模原麻溝公園内の各駐車場をご利用ください。

